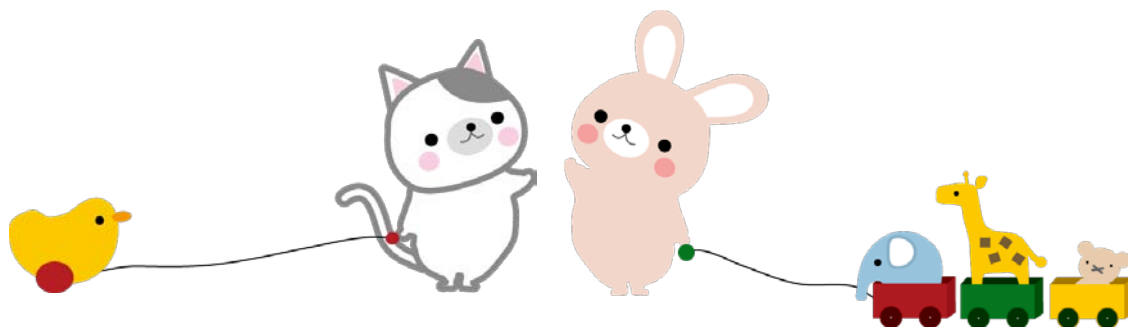
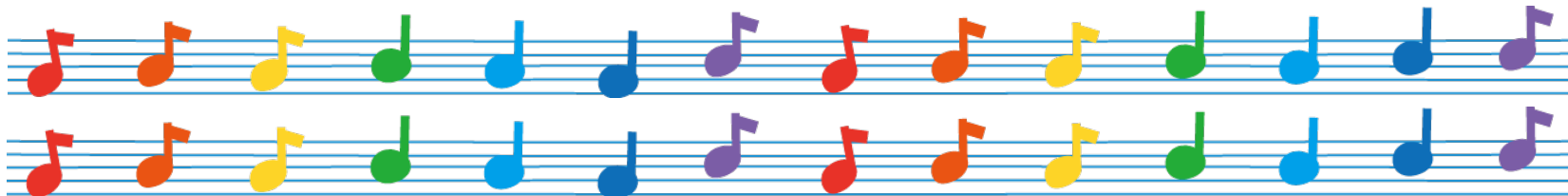


自己紹介



全作品と講評 www.columnland.net



何言おう……何言おう……何言おう……何言おう……何言おう……

「待ち時間」

民報抄

◇「やあやあ、我こそは武蔵が国の…」青空に高らかな名乗りの声が上が
る。今日は地域の行事で戦国時代の合戦を再現しているのだ。

◇しかし、このような名乗り合いは、実際にはまず起こらない。そもそも
大乱戦のさなかでそんなことをしている暇があるわけがない。

◇では武士はまったく名乗らなかつたのか、いやそうではない。次のよう
なケースがある。

◇平家の栄光と没落を描いた軍記物語である「平家物語」にそのシーンが
ある。源氏側の武士、熊谷次郎直実が平家の大夫敦盛を討ち取る場面だ。

◇立派な鎧武者が逃げようとしているのを見つけた直実はこれを挑発し、
戻ってきたところを撃破した。首を取ろうと兜を外せば、なんと自分の息
子と同じ年頃の美少年だ。

◇名前を問う直実に少年はまずは自分から名乗るように求める。直実が答
えると、少年は誰か知ってるだろうと答えない。大人をナメたクソガキで
あるようだが、実は少年こと敦盛は夜明け頃に見事な笛を演奏し、作戦を
指揮した源義経にも覚えられていたのだ。そして、そのときの笛を腰につ
けていた。

◇少年の首をとった直実はその首と笛を義経の下に持っていった。それを
見た義経は涙を流さざるを得なかつたという。つまり、少年は自らの腕前
で自分の存在を義経に刻みつけたのだ。直接名乗らずともそれ以上の効果
である。

◇この時代、名乗るという行為は味方にも敵にも自分をアピールするため
の行為だ。味方の士気を上げ、敵にプレッシャーを与える有効な一手であ
る。しかし、敦盛は口に出して名を名乗ることもせず、自らの才だけで敵
の大將に涙を流させることに成功したのである。自らの名前ではなく才を
示した、自己紹介の一つの形といえるだろう。

わたしいテレビとか新聞とかよくでるんだ

テレビではけっこう人気者なんだ

でもね、わたしのこと嫌う人けっこう多いんだ

私生活について話すとあ

わたしね、暗くなってくると活発かな？

特に夕方とかあ サイコーってかんじ

しかもあ疲れちゃうとすっごく活発だし

お酒飲んだりするともう抑えきれなくなっちゃう

昔はほんとに活発だったけどあ

最近は少し抑えられるようになってきたかなあ？

あとあ、ルールを守らない人とかあソクソクしちゃう

特技はね、みーんなの点数をふやしてあげることです

趣味はもちろんドライブ 電車とか大っ嫌い

好きな場所は交差点です♡

えーっ、今までに殺した人数うですかあゝ

うーん、数えきれないですう

「事故紹介」

じすいを始めて七ヶ月

この頃外食多くない？

しかたがないから料理しよう

ようきにお湯を注いだら

うたを歌って三分間

カップラーメン

いちばん得意

ワタシノナマエハ「アルトゥール・
アントウネス・コインブラ」デス

ブラジルジन्दス

シヨクギョウハサツカーセンシュ
デ、ニホンデプレーシタコトモアリ
マス

インタイゴハニホンダイヒョウノ
カントクヨツトメマシタ

自己紹介

俺の名前は田中だ。早速だが、昔話をしよう。あれは俺が一年生になったばかりのことだった一年生ということでその日は自己紹介というイベントが催された。俺は自己紹介というものが何かは知らなかったが、そのイベントがすごく楽しみだった。しかしこの時はまだ、この自己紹介というイベントがあんなに恐ろしいものだとは思いつかなかったのだった。

「はいみんな、席について。」教室中に先生の声が響き渡る。そろそろ自己紹介が始まるのだろう。「じゃあこれから自己紹介を始めます。では一番前に座っているお前、おまえからはじめろ。」と突然、先生の態度が急変した。しかしほかのクラスメートに動揺した様子は見られなかった。「なんてやつらだ。」思わず声に出してしまうほど、そこは異様な空間だった。そんなことをしているうちに一人目の生徒が自己紹介を始めた。

「私は、佐藤武の妹の父親の母親の親戚のいとこの友達の両親の親友の務めている学校での担当クラスである二年五組で比較的左足の薬指の長い部類に入る佐野君と一緒に遊園地に行ったときに見つけた小さな時計を今でも大事に持っている小野川さんの左斜め後ろにいつも落ちていたビー玉をめぐめて飛んできたカラスがよく食べ物をあさりに行ったごみ収集所に捨てられていた真つ赤なごみ袋のように目立つ帽子をかぶっていると近所で評判のやんちゃ坊主だ。」何とも長い自己紹介だった。いまして思えば何とも不思議な自己紹介だった。しかしその時の俺はまだ自己紹介というものをよく知らなかった。そう、その時の俺はこの自己紹介足りえぬ自己紹介に言い知れぬ感動を覚えていたのだった。そう思ってしまったのも自己紹介を知らなければ仕方のないことだったのかもしれない。「こいつに質問のある奴はいないか。」不意に先生がそう言った。俺はこの何とも言えない感動を一刻も早く言葉にしたかった。そう俺はこの頭のねじの外れたクレイジーボーイに質問をしてしまったのだった。「名前はなんていうのですか。」この質問はいけなかった。自己紹介をした相手に名前を聞くことはタブーだったらしい。何も知らない俺はそれをしてしまい、結果としてその後の六年間あがめられることとなったのだった。

「いぶきあすな、3さいです！　すきなたべものはみかんです！」

「伊吹あすなです！　新がた県から引っこしてきました。　仲良くしてください！」

「水沢小学校から来ました、伊吹明日菜です。バスケットボール部に入ろうと思つてます。バスケット部に入ろうと思つてる人いたら声かけて下さい。よろしくお願いします。」

「じゅ、受験びゃんごう、え、えっと、0465番、伊吹明日菜です！　よ、よろしくお願いします！」

「浅川中学校から来ました、伊吹明日菜です。中学ではバスケット部に入っていました。よろしくお願いします。」

「伊吹明日菜と申します。高校生のうちから様々なことを経験してみたいと思ひ、こちらのアルバイトに応募させていただきました。はい、はい……」

「伊吹明日菜です。東京の朝比奈高校出身です。よろしくお願いします。」

「伊吹明日菜です！　やる気なら誰にも負けません！　どんな仕事もやり遂げてみせます！　よろしくお願いします！」

「藤田先輩！　あの、新人の伊吹です！　今日からよろしくお願いします！」

「あ、あの……桐人さんの会社の後輩の……その、今お付き合いさせていただいてます、伊吹明日菜です！　あの、本日は突然御挨拶に伺ってしまい本当に申し訳……えっ、知ってた……？　あつ！　も、もう、桐人さんっ！」

「おかえりなさい。あら、そちらは……まあ、そうなの。はじめまして。桐人の妻の明日菜です。いつも主人がお世話になってます。少々散らかってて恥ずかしいですが、ゆっくりしていい下さい。」

どうも、はじめまして。

ちょっと今だけお宅に居候させていただいているものです。

奥様お料理じょうずですね。今晚のグラタンはサイコウだったなあ。

せっかくの機会ですし、わたしのことを手短に。

基本的に、夜が好きです。今宵もきれいなおつきさまがみえますね。

特技は、速く走ることです。飛ぶこともできるんですよ。

きらいなものは、甘いにおいのしかくい箱。

チャームポイントは、このツルツルとしたブラックボディです。

最近ハマっていることは、モグラたたきゲームです。あ、される側ですよ。あのスリル感と、プレイヤーのものですごい形相がたまらない。

こんなかんじです。これからよろしくおねがいしますね。

ここまでゆっくりわたしのはなしをきいてくださるかたなんて、あなたくらいしかいないでしょう。ありがとう。

自己紹介で悩む人々へ

自己紹介が苦手だという人は案外多い。そのような人々は新学期のような、自己紹介をする機会が増える時期には苦しんでいるのではないだろうか。そんな人々に、自己紹介など苦手でよいと言った人物の言葉を紹介しようと思う。

その人物とは、今年生誕一〇〇周年を迎えた小説家・宋文是である。

彼は言った。

『『自己紹介』という言葉は『自己を紹介する』ということの意味しない。』おのずから己を紹介する』ことを意味するのだ。』

すなわち、自己紹介は自分の口から自然に出てくる『己を紹介する言葉』をすべて言った時点で成立するのだから、無理に紹介することを探したりするのは無意味なことである、というのだ。彼はこのことを自身の小説の登場人物に度々語らせている。

たとえば、彼の代表作『ハイヤニスペイン』において、主人公のハイヤニスペインはこう言った。

「自己紹介？ 必要ないね。俺は見たままの人間だ。」

また、ファンの間で隠れた名作と称賛されている『W.H.U.』では主人公のライバルである于冷泉がこう言っている。

「私が何者なのかは私のことを見ていればわかります。」

紹介できなかった部分は今後の付き合いの中で相手に発見させればよい。焦ることはないのだ。自己紹介はこれからも付き合いがある人との間で行われるものなのだから。

自分のことを見つめ直す

話はそこから

「自己紹介」

コンテスト結果

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
01	待ち時間	6 pt	3 位	0 sp
		待ってる時間の長さ。いっそ逃げ出してみたい。 その焦りがレイアウトで視覚的に伝わってくる今週の表紙です。 リアルな描写が共感呼んでブロンズ・メダルでした、おめでとう！ イチオシフレーズ：「何言おう・・・」×2		
02	民報抄	2 pt	8 位	0 sp
		敦盛さまの笛での典雅な自己紹介。 いい逸話をストレートにいていないに紹介して、ラストもしっとりまとめられています。 新聞コラムなら、もうひとおし時事にからめての主張があっても良かったか。		
03	事故紹介	6 pt	3 位	1 sp
		うわ、こわっ。危険運転の異常なハイテンションぶりが、擬人化することでしっかり形になりました。 だんだん正体が見えてくるホラー感の演出が策士ですねえ。 怖いもの見たさ気分を誘ってブロンズ・メダルでした、おめでとう！ 特別賞：気を付けま賞 from D班（事故怖い） イチオシフレーズ：「特技はみんなの点数を増やしてあげることです」		
04	一人暮らしの実状	3 pt	5 位	1 sp
		あるある光景を、軽快なリズムで描写して、コミカルな情景がくっきり見えてきます。自炊がんばり！ 特別賞：カップラーメン食べま賞 from E班（カップラーメン食べたことない人がいたので、一度は食べた方がいいと思ったから）		
05	ジーコ紹介	8 pt	2 位	2 sp
		ジーコの自己紹介というギャグのかましかたがすてきです。 ちゃんと事実を踏まえて、きちんとまとめてあって、ご本人が話してくれているような臨場感でした。 思い付いちゃったんだから、しかたない！書き直した甲斐がありましたね。おめでとう、シルバー・メダル!! 特別賞：ジーコ賞介 from A班（最後のジーコ紹介で吹いたww）ニホンゴウマイデ賞 from C班（全く無駄のない日本語） イチオシフレーズ：「ジーコ紹介」		
		3 pt	5 位	3 sp
		このクレイジーボーイ、何者？これだけ噛まずに言える時点で、すでにクレイジーです。 おなじみ「まじめ」追求の作者さんからのクレイジーなプレゼントでした。話題性じゅうぶん、最多特別賞		

06	自己紹介（田中）	&イチオシフリーズ大賞のダブル受賞です。おめでとう!! 特別賞：まじめすぎて、どうしようもないで賞 from B班（「妹の死」なみに真面目な作品でした） 昼ドラ賞 from I班（ドロドロしてるね） 俺も佐藤武の(ry 賞 from J班（俺だって、俺だって！俺だってええ!!） イチオシフリーズ：「私は（以下略）」 「名前はなんていうのですか。」 「この頭のねじの外れたクレイジーボーイ」		
07	自己紹介の変遷	27 pt	1 位	0 sp
		長い長い人生ストーリーを、自己紹介だけ切り取って並べたら、こんな感じかな、と。長文書きさんの長文を捨ててのワザが光りました。 そう、三段組みにぎっしり詰めればいいってもんじゃないのさ！ みごとにヒットして圧勝のゴールド・メダルです、おめでとうっ!!!! イチオシフリーズ：「3 さいです！」		
08	G	3 pt	5 位	2 sp
		こちら、ジーの自己紹介だぜい。 モグラ叩かれが趣味だなんて、命賭けてますねえ。 カッコいい！キャラがしっかり立ってました。 作者さんが、とてもエレガントなお嬢様だったことに、またびっくり。 特別賞：絶滅させま賞 from F班（ゴキブリ爆発しろ） G賞（G班としてこの作品を推さないわけにはいかないでしょう）		
09	自己紹介で悩む人々へ	0 pt	10 位	1 sp
		もっともらしいけど、良く分からないウンチクで煙に巻きつつ、でもたいせつなことはラストでしっかり伝えてくれます。 そうだね、長いつきあいの始まりなんだから、焦る必要なんてない、と。 特別賞：そう簡単にはいかないで賞 from H班（そもそも自己紹介しないと付き合いが始まらない。） イチオシフリーズ：「俺は見たままの人間だ。」 「おのずから己を紹介する」		
10	自己紹介	2 pt	8 位	0 sp
		静けさのなかで自分自身と、しんと対峙する。あたかも座禅を組んで瞑想にふけるかのような。 フォントもぴたりはまった今週の読み納めでした。		